

久喜市立郷土資料館だより

ふ え ね 笛の音 第7号



実際の展示風景



展示を見ながらワークシートに励む小学生

目 次

平成 30 年 10 月 10 日 (水) から 12 月 23 日 (日) にかけて、第 9 回特別展「祈りと願い 彩る獅子—久喜市の獅子舞展—」を開催しました。久喜市に伝わる 7 地区の獅子舞について、実際に使われている道具や映像記録、スライドを用いて紹介しました。

獅子頭と獅子の衣装は地区ごとに展示替えを行い、市内の獅子たちが展示を彩りました。

※特別展の図録は現在も頒布中です。お気軽に窓口でお求めください。

- 神楽の世界 番外編 2
- 久喜ゆかりの人物 内藤正成 2
- 収蔵資料紹介⑥ 太刀 3
- 新出！資料紹介 3
- お知らせ情報 4

神楽の世界 番外編

国指定重要無形民俗文化財の鷺宮催馬楽神楽についてシリーズで紹介してきましたが、今回は番外編として最新の情報をお伝えします。

鷺宮催馬楽神楽を部活動として行っている鷺宮中学校郷土芸能部が、一般財団法人地域伝統芸能活用センターによる地域伝統芸能奨励賞を受賞しました。この賞は、「日本各地に伝わる伝統芸能の技の継承に、日頃から地道な努力を重ね、その地域の伝統芸能をになって立つと期待される、将来有望な若い新人」（同センター HP より転載）などに授与される賞で、中学校の部活動としては初めての受賞とのことでした。

この賞の授賞式を兼ねた地域伝統芸能全国大会「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会あいち・なごや」、愛称「日本の祭り in あいち・なごや 2018」が、愛知県名古屋市で平成 30 年 11 月 3 日(土)・4 日(日)に行われました。海外からの 2 団体と、愛知県内を中心に全国各地からの 30 団体が出演する規模の大きな大会です。大会は 2 会場同時進行で行われ、郷土芸能部は、3 日にはメイン会場である日本特殊陶業市民会館で授賞式に出席し、その後、神楽を披露しました。この日は同センターの名誉総裁である高円宮妃久子殿下の御臨席がありました。4 日には、サブ会場

であり、名古屋城内にあるドルフィンアリーナ（愛知県体育館）第 2 競技場で披露をしました。両日ともに、催馬楽神楽の「第九座 五穀最上国家経営之段」を披露しました。日頃の練習の成果を遺憾なく発揮した素晴らしい舞と演奏で、多くの拍手を頂いていました。

郷土芸能部は、昭和 55 年に郷土芸能クラブとして設立され、平成 5 年に課外の部活動である郷土芸能部となって今日まで続いています。

(文化財保護課学芸員 池尻 篤)



発表の様子 (11月3日)

久喜ゆかりの人物

ないとう まさなり
内藤 正成

大永 7 年 (1527) ~ 慶長 7 年 (1602)

内藤正成は弓の名手として知られる徳川家康の家臣で、現在の久喜市の一部を領地として与えられた旗本です。

正成は大永 7 年 (1527) に生まれ、伯父の清長のもと上野城（現愛知県豊田市）で育ちました。初陣は 16 歳のときで、織田信秀（信長の父）の兵と戦い、見事な弓の腕前を披露します。家康が三河国統一後に定めた軍制では、正成は服部半蔵などと並んで「足軽指引物見役の衆」になっています。これは足軽大将として弓などを使用する足軽を指揮し、偵察としての役割も担った役職です。その後の正成の活躍は目覚しく、武田信玄の勢力と戦った三方ヶ原の戦いでは息子正貞を助けながら槍を振るって敵を倒し、家康を支えました。豊臣軍と戦った小牧・長久手の戦いでは偵察に出かけ、速やかに出撃することを進言し、勝利に貢献しています。正成は武勇に優れ、普通では矢が届か

ない高い檣に弓矢を放ったり、一本の矢で 2 人の兵士を射抜くなどの逸話が残っています。その戦功から、本多忠勝などと並んで、徳川十六神将に数えられています。

天正 18 年 (1590) 家康が関東に移ったとき、正成は武蔵国埼玉郡栢間村、戸ヶ崎村、新堀村、三箇村、小林村などに 5000 石の領地を与えられます。現在の栢間小学校付近に陣屋を構え、慶長 7 年 (1602) に栢間村で病死します。墓所は菩提寺であった善宗寺（菖蒲町下栢間）にあり、市指定文化財に指定されています。

(郷土資料館学芸員 星野 諒)



内藤正成の墓

収蔵資料紹介 ⑥

たち 太刀

南北朝期、鷲宮神社は下野の豪族小山氏から崇敬を受けていました。特に小山義政の崇敬は篤く、応安5年（1372）11月には、同社の社殿を再興し、永和2年（1376）4月には、「武州太田庄鷲山大明神」と銘した太刀を奉納しています。この太刀は国指定重要文化財に指定されており、郷土資料館では展示室1（常設展示室）に写し（※）を展示しています。

太刀は刃渡りが101.5cm（3尺3寸5分）の長大なもので、縹造り、庵棟、元身幅4.2cm（1寸3分9厘）、先幅3.5cm（1寸1分5厘）、反り3.6cm（1寸1分9厘）です。

太刀は備中国の青江派と呼ばれる刀工の1人、吉次によって鍛造されたものです。一般に青江派は平安末期から鎌倉中期のものを古青江、鎌倉末期のものを青江または中青江、南北朝期のものを末青江と呼称しています。吉次は青江、中青江に属する刀工で、刃文は大波を感じさせる湾れに互の目（整然とした乱れ模様）

がまじっている様子を見て取ることができます。

また、近年では刀剣をモチーフにしたゲームの流行に伴い、青江派を擬人化したキャラクターも登場しています。このことから若い世代を中心に太刀への関心が高まってきています。（星野）



実物の写真



※実物を模した日本刀のこ

新出！資料紹介

近年、新たに資料館に収蔵された資料を紹介します。



軍服（化粧箱付き）

寄贈者 個人

採集地 青毛地区

日中戦争に従軍し、戦時中は陸軍伍長を務めていた故人（明治41年（1908）生まれ）が着用していた軍服です。着用年代は不明ですが、国防色（帯青茶褐色）の生地で作られた軍服（上衣と袴下）が化粧箱に収められています。

上衣は立襟で、襟部には砲兵科の定色である黄色の襟章が付けられています。肩章は着脱式で、上等兵を示す赤地に三ツ星が刺繍されています。この軍服が収められていた化粧箱は、上箱に「軍人服製造問屋・団体服製造問屋 東京神田柳澤商店」の店名と軍人のイラストの入ったラベルが貼られています。このような化粧箱が残っていることは珍しく、当時の様子が分かる貴重な資料といえます。（郷土資料館学芸員 巻島千明）

お 知 ら せ 情 報

収蔵品展「ちょっとむかしの道具たち」

平成31年2月5日(火)～3月31日(日)

昭和30年代の民具を中心に、昔の道具を紹介します。はじめて見る道具や懐かしい道具たちの展示をぜひご覧ください。

会 場 郷土資料館展示室2

開館時間 午前10時～午後6時

休 館 日 月曜日(2月11日は祝日のため開館します)、2月12日(火)、2月22日(金)、3月22日(金)、3月29日(金)



歴史講座「郷土の歴史・文化を学ぶ基礎講座」 参加者募集

考古学と発掘調査の基礎知識について、久喜市文化財保護課の学芸員による講座を開催します。

場 所 郷土資料館視聴覚ホール(現地見学あり)

日 時 ①平成31年3月7日(木)

第1回「考古学の基礎知識」

13時30分～14時30分

第2回「発掘調査の基礎知識」

14時45分～15時45分

②平成31年3月8日(金)

第3回「久喜市の地形と遺跡」

13時30分～14時30分

第4回「鷲宮神社の地形を見る(現地見学)」

14時45分～15時45分

講 師 久喜市文化財保護課 学芸員

対 象 どなたでも

定 員 30人(申込順)

申 込 平成31年2月15日(金)

10時00分から

申込方法 ①講座名

②氏名(ふりがな)

③市内在住者は地区名、市外在住者は市町村名

④連絡の取れる電話番号

以上を直接窓口か、電話・Eメールでご連絡ください。



電車で

■東武伊勢崎線 鷲宮駅下車 徒歩15分

■JR宇都宮線 東鷲宮駅下車「豊野コミュニティセンター」

行きバス「図書館入口」下車 徒歩2分

自動車で

■東北自動車道 加須インターから10分

久喜インターから25分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第7号

発行 平成31年(2019)1月20日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷲宮5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります